

強化戦略プラン

第一部

公益社団法人日本カーリング協会

強化責任者： 柳 等

連絡先：

E-mail：

強化戦略プラン 第一部（競技団体共通）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
1.0	令和2年6月26日	柳 等	

○バージョン管理

軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
 大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

■ 共通理念

スポーツ基本法、第2期スポーツ基本計画及び競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）を踏まえ、今後のオリンピック・パラリンピック競技大会等で日本が優れた成績を収めるだけでなく、スポーツ庁をはじめ、日本オリンピック委員会（JOC）、日本パラリンピック委員会（JPC）、中央競技団体（NF）、日本スポーツ振興センター（JSC）等と連携・協働し、強力で持続可能な支援体制を構築し継承していくことを目指していく。

■ 行動指針

強化戦略プラン実施における行動指針

1. 事業活動

強化戦略プランの実効化及び目標達成に向けて行動し、必要に応じて適切な情報開示に努める。

2. 法令遵守

活動の実施及び活動費の使用に当たり、法令やその他諸規程を遵守するとともに、体制を整備し、高い倫理観を持って行動する。

3. 公正な会計

透明性ある事業運営として、財務、経理を適正に行い、公正な会計原則に則って事業を実施する。

4. 倫理

社会倫理に即し、本事業並びに関連する組織及び個人の名誉・信用を損なわないよう行動する。強化戦略プラン推進に係る活動や決定事項に対して、私的な問題や利害関係を持ち込まない。

5. 情報管理

強化戦略プランに係る情報については、個人情報等に十分留意し、厳重に管理し適切に取り扱う。目的に反する使用や第三者への漏洩は行なわない。

* * *

上記の行動指針に基づき、強化活動を遂行する。

署名（統括責任者）

競技団体名：公益社団法人日本カーリング協会

<p>概要</p>	<p>住所： 東京都新宿区霞ヶ丘 4 番 2 号 504</p> <p>電話： 03-5843-0371 FAX： 03-5843-0372</p> <p>URL：</p> <p>会長： 貝森輝幸 事務局長： 小高正嗣</p>
<p>理念</p>	<p>ビジョン： 「カーリング精神 the Spirit of Curling」を社会に浸透させ、国民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。</p> <p>ミッション： 強化 オリンピックでの金メダル獲得を目指し、日本代表が国際的に活躍することによって「カーリング精神 the Spirit of Curling」を体現し、夢や希望、感動を人々に与える。普及 「カーリング精神 the Spirit of Curling」を生活に取り入れ、人々が幸福感を得られる社会を作る。</p> <p>バリュー： 善きスポーツマンシップ good sportsmanship, 思いやりの気持ち kindly feeling, 誇り高き行為 honourable conduct</p>
<p>実績</p>	<p>【主要国際大会結果】</p> <p>女子カーリング</p> <p>第 23 回オリンピック冬季競技大会（2018／平昌）3 位入賞（銅メダル獲得）</p> <p>第 22 回オリンピック冬季競技大会（2014／ソチ）5 位入賞</p> <p>2019 年世界女子カーリング選手権大会 4 位入賞</p> <p>2018 年世界女子カーリング選手権大会 10 位</p> <p>男子カーリング</p> <p>第 23 回オリンピック冬季競技大会（2018／平昌）8 位入賞</p> <p>2019 年世界男子カーリング選手権大会 4 位入賞</p> <p>2018 年世界男子カーリング選手権大会 11 位</p> <p>ミックスダブルスカーリング</p> <p>2019 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会 5 位入賞</p> <p>2018 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会 5 位入賞</p>
<p>目標 （現状可能な目標） （4 年・8 年）</p>	<p>【2020 年東京大会（夏季）／2022 年北京大会（冬季）】</p> <p>女子カーリング 金メダル獲得</p> <p>男子カーリング メダル獲得</p> <p>ミックスダブルスカーリング メダル獲得</p> <p>【2024 年パリ大会（夏季）／2026 年大会（冬季）】</p> <p>女子カーリング 金メダル獲得</p> <p>男子カーリング メダル獲得</p> <p>ミックスダブルス メダル獲得</p>
<p>強化責任者</p>	<p>【強化責任者】</p> <p>柳 等（常任理事・強化委員長）</p> <p>【強化単位責任者】</p> <p>柳 等（常任理事・強化委員長）</p>

<p>財務計画</p>	<p>【2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）まで】 2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）まで 2019年度予算において、同上 70,000,000 80,000,000 合計 150,000,000 2020年度予算において、同上 77,000,000 80,000,000 合計 155,000,000 2021年度予算において、同上 82,000,000 80,000,000 合計 162,000,000（単位円） スポンサーの獲得、放映権料等の増加に努める。世界選手権大会、オリンピックでの上位入賞し、安定した上位成績を残す。</p> <p>【2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）まで】 2022年度予算において、同上 90,000,000 80,000,000 合計 170,000,000（単位円） それ以降 2022年度の予算を維持。</p>
<p>強化戦略 プランの承認 の流れと共有 範囲（新規）</p>	<p>強化委員会において強化戦略プランを作成。 7月の理事会にて承認。 本会ウェブサイトに掲載する。</p>

強化戦略プラン

第二部

男子カーリング

バージョン 2.0

2020/06/30

強化責任者： 柳 等

連絡先：

E-mail：

強化戦略プラン 第二部（種目又は種別、強化単位）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
1.0	令和2年6月30日	柳 等	

○バージョン管理

軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

目次

1. 現状と目標	4
1-1：現状	4
1-1-1：背景と現状の競技力	4
1-1-2：優位性と課題	4
1-2： 目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	5
1-2-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）	5
1-2-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）	6
2. 戦略方針	7
2-1：競技力強化のための戦略.....	7
2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略.....	7
2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略	8
2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ	8
2-3：強化拠点	8
2-4：強化体制等の整備	9
2-4-1：日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考	9
2-4-2：アンチ・ドーピングに関する取り組み.....	9
2-4-3：人材育成・確保.....	9
2-4-4：強化戦略プラン推進体制	9
3. モニタリング及び検証・評価	9
4. 別添資料	10

1. 現状と目標

1-1: 現状

1-1-1: 背景と現状の競技力

2018年平昌冬季オリンピック大会には、SC 軽井沢クラブが日本男子にとって20年ぶりに出場し、8位入賞した。2019年世界男子カーリング選手権大会にはコンサドーレが出場し、4位入賞を果たした。オリンピックに続き、翌年の世界男子カーリング選手権大会でも日本男子の活躍が見られ、我が国においても男子カーリングが注目されるようになってきた。2018年平昌大会に出場したSC 軽井沢クラブのチームは解散したが、元メンバーがそれぞれ別のチームで活動し始め、国内に複数の強豪チームが誕生した。2022年北京大会に向けて切磋琢磨して相互に競技力を高め合いことが期待されている。とはいえ、男子のトップチームの選手の中には、競技に専念した生活を送るのが難しい状況にある。仕事と競技の両立が求められる環境であったり、定職がなく安定した収入が得られない環境であったり、強化活動を行うのに金銭的な支援を十分に受けられない環境であったりして、女子カーリングチームに比較すると競技に集中して活動する条件が十分に揃っていないとも言えないのが現状である。本協会の強化方針はより多くの海外強化合宿を実施して国際競技力を図ることとしているが、ワールドカーリングツアー(WCT)などの国際大会の参戦できる数も女子に比べてやや少ない傾向にある。

2019-20シーズンの日本代表の活動であるが、コンサドーレが日本代表として2019年パシフィックアジアカーリング選手権大会に出場し、2位入賞となった。その後2020年世界選手権大会予選に出場したが、3位となり、2020年世界男子カーリング選手権大会の出場権は獲得できなかった。この世界選手権大会は2022年北京大会の出場権のかかる大会であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。結果として、2022年北京大会の出場資格獲得のレギュレーションも変更になり、世界選手権大会不出場による2022年北京大会出場への影響は最小限にとどまっている。

2019-20シーズンのWCTランキング(令和2年2月3日現在)には、コンサドーレが18位にランクされたほか、国内男子チームは50位以内に2チームがランクされている。強化チームAのコンサドーレは、WCT等の国際大会10大会以上に出場し、国際試合の経験を積み、計画通りに強化を進めてきた。他の日本男子チームも追隨して国際競技力を向上させてきている。

日本男子の世界カーリング連盟(WCF)の世界ランキングは6位である(令和2年6月30日現在)。上位の国は、順にスウェーデン、カナダ、アメリカ、スイス、スコットランド(イギリス)である。日本の次はノルウェー、韓国となっている。

1-1-2: 優位性と課題

日本カーリングの強みは、国内に公的施設の通年型カーリング専用リンクが5か所(軽井沢町、北見市、青森市、札幌市、稚内市)にあることである(令和2年6月30日現在)。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い、基本動作の技術を確実に習得することが、国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

一方、国際競技力向上を図るために海外強化合宿を実施して、北米や欧州でのワールドカーリングツアー大会に参戦する必要がある。強化チームであっても、仕事の都合や金銭的な問題で海外強化合宿を限定的にししか実施できない場合もある。男子カーリングには、金銭的な支援を受けられる企業チームや地域クラブチームがほとんどなく、競技に専念できる環境にある選手が少ないことや強化チームをサポートする体制が十分に整備されていないのが問題となっている。また、ジュニアや大学の強化チームも含めてより多くの男子チームが継続的に海外強化合宿を実施して、国際競技力向上を図ることができる環境を整えていくこととともに、強化スタッフの確保し育成していくことが課題となっている。

1-2: 目標（現状可能な目標）とマイルストーン

1-2-1: 2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）

	目標（現状可能な目標）
2020年 2022年	メダル獲得

年度	マイルストーン（検証指標）
2021	2022年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2021-22 WCF 世界チームランキング 15位以内 1チーム, 25位以内 1チーム 2021年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2位以内
2020	2021年世界男子カーリング選手権大会メダル獲得 2020-21 WCF 世界チームランキング 18位以内 1チーム, 30位以内 1チーム 2020年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2位以内
2019	2020年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2019-20年 WCT ランキング 20位以内 1チーム, 50位以内 1チーム 2019年パシフィックアジアカーリング選手権大会優勝

上記の目標・マイルストーンを設定した理由や根拠

2019年世界男子カーリング選手権大会で4位入賞したため、2022年北京大会はメダル獲得を目標とする。

近年のオリンピックにおけるメダル獲得国は、直近2年の世界選手権大会でメダルを獲得している傾向にある。そこで、2020年世界選手権大会プレーオフ進出、2021年メダル獲得と、2022年北京大会に向けて段階的な目標を設定した。

さらに、WCT ランキングや WCF 世界チームランキングに関する目標を設定した。オリンピック、世界選手権大会のメダル獲得国は WCT ランキングや WCF 世界チームランキングの上位チームの国であり、ランキング 15位以内のチームはメダルを獲得する可能性が高いため。

1-2-2 : 2024 年パリ大会 (夏季) / 2026 年大会 (冬季)

	目標(現状可能な目標)
2024 年 2026 年	メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2025	2026 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2025-26 WCF 世界チームランキング 12 位以内 1 チーム, 20 位以内 2 チーム 2025 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2024	2025 年世界男子カーリング選手権大会メダル獲得 2024-25 WCF 世界チームランキング 15 位以内 1 チーム, 25 位以内 2 チーム 2024 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 以内
2023	2024 年世界男子カーリング選手権大会 4 位以内 2023-24 WCF 世界チームランキング 18 位以内 1 チーム, 25 位以内 2 チーム 2023 パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2022	2023 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2022-23 WCF 世界チームランキング 20 位以内 1 チーム, 30 位以内 2 チーム 2023 年 FISU ワールドユニバーシティゲーム メダル獲得
2021	2022 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2022 世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出
2020	2021 年世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出 2021 年ユニバーシアード冬季競技大会プレーオフ進出 2020 年世界ジュニア B 選手権大会 3 位以内
2019	2020 年世界ジュニアカーリング選手権大会出場 2019 年世界ジュニア B 選手権大会 3 位以内

上記の目標・マイルトーンを設定した理由や根拠

2026 年大会ではメダル獲得を目標とする。

2022 年北京大会のある 2021 年度までは、次世代ジュニア強化チームを想定してマイルストーンを設定した。この期間に世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出、ユニバーシアード冬季競技大会メダル獲得と順に国際経験を積ませるため。

2022 年度以降は、ワールドカーリングツアー大会参戦を中心に国際経験を積ませて 2026 年ミラノ・コルチナ大会に向けて強化を図る。世界選手権大会、パシフィックアジア選手権大会、世界チームランキングについては、オリンピック直近 2 年の世界選手権大会でメダルを獲得するように段階的な目標を設定した。

2. 戦略方針

2-1: 競技力強化のための戦略

2-1-1: 2020年東京大会(夏季) / 2022年北京大会(冬季)の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① 海外強化合宿での国際試合経験の積み上げ
- ② 主要国際大会でのストーン、アイスに関する情報収集・分析, 強豪国チームの戦略情報収集・分析
- ③ 主要国際大会でのコンディション維持

戦略

国際競技力向上のための強化方針は、国内有力チームを海外強化合宿に派遣して、海外強豪チームとの試合を経験させることである。スウェーデン、カナダ、スイス、カナダ、スコットランドなどの強豪国のチームは、1シーズン中にワールドカーリングツアー(WCT)などの国際大会に10~15回出場している。世界チームランキングで15位以内になると、世界選手権大会やオリンピックでのメダルの可能性が高くなる傾向にある。日本の強化チームもそれと同等数の国際大会、少なくともWCT10大会に出場し、国際経験を積む必要がある。世界カーリング連盟(WCF)世界チームランキングで上位に位置するメリットは強化の好循環に入れることだ。つまり、WCTグランドスラム大会に招待されるようになり、強豪チームとの対戦の機会も増加するうえ、大会の結果に対するポイントも高くなるのである。複数の国内チームがこのレベルで競合する状況を作ることが望まれる。

カーリングの競技力の要素には、アイスの読みとストーンのマネジメントがある。選手個人のスキル、チームのパフォーマンスはこれらの要素と深く関係している。WCF主催の主要国際大会については、アイスやストーンの情報日本カーリング協会の強化委員会が管理し、強化チーム間で共有する。また、大会でのデータ収集は強化スタッフがサポートし、チームに提供する。

主要国際大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が必要である。特に世界選手権大会は予選の7日間一日2試合、さらにプレーオフに進むと9日間にもおよぶ。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、当然ながら選手には体力向上のために継続的なフィジカルトレーニングが求められる。さらに、より良いコンディションを大会で維持するには、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が必要となってくる。本会医科学委員会と連携し、トレーナーや管理栄養士を国内・外の強化合宿や主要な国際大会に派遣してもらい、選手のコンディションの維持・向上をサポートする体制を充実させていく。

2022年北京大会までの日本カーリング選手権大会および日本代表選考の方法をすでに決定している。日本カーリング選手権大会は、世界カーリング選手権大会とパシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表を決定する大会である。オリンピックや世界選手権大会などの主要国際大会に安定したパフォーマンスを発揮できるチームを日本代表として選出する大会であることが求められる。強化チームA・BやWCF世界チームランキング50位以内の最上位チームが出場できる条件を整えることで、海外強化合宿で国際経験を積んだチームから日本代表が確実に選出されるようにしている。さらに、日本選手権大会では海外の優秀なアイス技術者を大会時に招聘して、主要な国際大会と同等の条件のストーンやアイスを提供する体制を整備する。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、海外強化合宿の中止や規模縮小での実施は避けられない状況だ。国内で今夏開催される予定のWCT大会が二つ中止となり、強化事業計画の執行にすでに支障が生じている。強化事業計画を見直し、海外強化合宿の代替として、強化チームによる国内合同強化合宿の実施が必要と考えている。大会を想定した形式での合宿を異なるカーリング施設で複数回実施することを計画する。海外強化合宿実施の可否は、外務省の感染症危険レベルを参考に状況に応じて判断する。

2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① ジュニアカテゴリーからトップチームまでの海外強化合宿派遣の継続
- ② ジュニア担当コーチのブロック巡回指導
- ③ ジュニア国内合同強化合宿

戦略

ジュニア強化選手、大学強化選手を海外強化合宿に派遣し、ワールドジュニアカーリングツアー(WJCT)大会に参戦させる。国内とは異なる環境の大会で、様々なタイプのチームと対戦する機会を増やす。世界の同世代のチームとの試合経験をより多く積ませる。2022年度以降は、トップカテゴリーのワールドカーリングツアー(WCT)大会に主戦場を移し、2026年ミラノ・コルチナ大会に向けて強化を図る。

ジュニア担当コーチは、ジュニア強化選手、大学強化選手の所属するブロックを定期的に巡回し、将来を見据えて指導する。ジュニアおよび大学のカテゴリーにおいては、日本代表として単独チームではなく、選抜チームを国際大会に派遣することも想定して、強化体制を構築していく。

ジュニア強化選手、大学強化選手を対象としたジュニア国内合同強化合宿は従来通り継続して実施する。強化合宿では、実戦形式の練習のほか、チームビルディング、アンチ・ドーピング、コンプライアンス・ガバナンス、食事・栄養、メンタルトレーニング、フィジカルトレーニング、コンディショニング、メディアトレーニング等の研修を行い、「カーリング精神」を理解し、体現できるアスリートを育成することを目指す。

2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

別添1に記載

2-3：強化拠点

1) 強化拠点の必要性と活動方針

通年型カーリング専用リンクはシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できる強化拠点として必要である。国際大会で安定したパフォーマンス発揮するために、基礎練習を反復して基本動作の技術を習得する。

2) 主な活動場所

具体的な活動場所		主に使用するカテゴリー
拠点・施設名	所在地(都道府県・市町村)	
軽井沢アイスパーク	長野県北佐久郡軽井沢町	全て
アドヴィックス常呂カーリングホール	北海道北見市常呂町	全て
みちぎんどリームスタジアム	青森県青森市合浦	全て
どうぎんカーリングスタジアム	北海道札幌市豊平区	全て

2-4：強化体制等の整備

2-4-1: 日本代表選手及び指導者(コーチ)、強化スタッフの選考

1) 日本代表選手

世界カーリング選手権大会、パシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表選手は日本カーリング選手権大会優勝チームから原則選考される。また、オリンピック、ユニバーシアードなどの日本代表選手は日本代表決定戦優勝チームから原則選考される。各大会の結果および過去の実績を考慮して強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

2) 日本代表監督・指導者(コーチ)、強化スタッフ等

日本代表チームの指導者は、日本選手権大会、日本代表戦決定戦等の結果および過去の実績等を考慮して強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表の指導者として決定する。

2-4-2: アンチ・ドーピングに関する取り組み

カーリング競技規則に「カーリング精神」が謳われ、そこに「素晴らしいスポーツマンシップ、思いやりの気持ち、尊敬すべき行為」がすべてのカーリング関係者に求められている。アンチ・ドーピングについては、毎年夏季国内合同強化合宿、夏季国内ジュニア合同強化合宿において研修を実施している。同合宿において、「コンプライアンス・ガバナンスセミナー」を実施し、本協会倫理規程に基づき設置されたコンプライアンス委員会が違法行為や規程に反する行為等の防止に取り組んでいる。強化選手に対して参加を義務づけ、スポーツ・インテグリティ教育を徹底している。また、「日本代表及び強化選手行動規定」が定められており、強化選手や関係スタッフはその自覚や責任を忘れず、行動規定を遵守し規律ある行動に努め、最善を尽くして競技に臨むことを誓約することになっている。

2-4-3: 人材育成・確保

強化チームの外国人コーチとして、カナダ人のロバート・アーセル氏を 2019 年度から配置している。2022 年北京大会まで、男子日本代表チームのコーチを担う予定。

ジュニア担当コーチとして小笠原歩氏を配置している。2026 年ミラノ・コルチナ大会に向けた強化体制での外国人コーチは未定。今後、日本人の専任コーチや外国人のコーチをサポートする強化スタッフとしてオリンピックの活用も検討している。

2-4-4: 強化戦略プラン推進体制

別紙

3. モニタリング及び検証・評価

モニタリング及び 検証・評価の項目	実施時期	実施者	備考
目標とマイルストーン	年 2 回(12 月, 5 月)	強化委員長, 副委員長, ジュニア担当コーチ	
各事業の進捗状況	年 2 回(9 月, 1 月)	強化委員長, 副委員長	

強化戦略プラン	年 2 回(12 月, 5 月	強化委員長, 副委員長, ジ ュニア担当コーチ	

4. 別添資料

- 別添 1) 有望選手及び指導者・スタッフ一覧
- 別添 2) 2020 年度事業計画

強化戦略プラン

第二部

女子カーリング

バージョン 2.0

2020/06/30

強化責任者： 柳 等

連絡先：

E-mail：

強化戦略プラン 第二部（女子カーリング）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
1.0	令和2年6月30日	柳 等	

○バージョン管理

軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

目次

1. 現状と目標	4
1-1：現状	4
1-1-1：背景と現状の競技力	4
1-1-2：優位性と課題	4
1-2： 目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	5
1-2-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）	5
1-2-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）	6
2. 戦略方針	7
2-1：競技力強化のための戦略.....	7
2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略.....	7
2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略	8
2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ	8
2-3：強化拠点	8
2-4：強化体制等の整備	9
2-4-1：日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考	9
2-4-2：アンチ・ドーピングに関する取り組み.....	9
2-4-3：人材育成・確保.....	9
2-4-4：強化戦略プラン推進体制	9
3. モニタリング及び検証・評価	9
4. 別添資料	10

1. 現状と目標

1-1: 現状

1-1-1: 背景と現状の競技力

日本女子は、1998年長野大会以来、6大会連続でオリンピックに出場している。2014年ソチ大会で5位入賞、2018年平昌大会で3位入賞し、初の銅メダル獲得となった。世界女子カーリング選手権大会については、2016年大会で2位入賞、銀メダル獲得、2019年大会は4位入賞であった。近年の女子カーリングの成績は、通年でオンアイス練習できる国内の環境が整備されたことや海外強化合宿でワールドカーリングツアー(WCT)等の国際大会に参戦して海外強豪チームと対戦する機会が増えたことが関係しているといえる。また、ジェームズ・リンドコーチの指導の成果として、粘り強く最後まであきらめずに戦うマインドセットを形成するとともに、アイスリーディングやコミュニケーションスキルの向上によって様々な状況に対応できるようになったためといえる。

令和元年度(2019-20シーズン)は、中部電力が日本代表として2019年パシフィックアジアカーリング選手権大会に出場し、2位となった。2020年世界女子カーリング選手権大会の出場権を獲得したが、新型コロナウイルス感染症の影響で大会自体は中止となった。2019-20 WCT ランキングに注目すると、ロコソラーレが4位、北海道銀行が8位、富士急が13位、中部電力が32位にランクされた(令和2年2月3日現在)。世界選手権大会を除き、強化戦略プランのマイルストーンは達成できた。女子強化チームA~Cの4チームはいずれも複数回の海外強化合宿でWCT等の国際大会11~14大会に出場して国際経験を積むことができたので、2022年北京大会に向けて計画通りに順調に強化が進められているといえる。

日本女子の世界カーリング連盟(WCF)の世界ランキングは5位である(令和2年6月30日現在)。上位の国は、順にスウェーデン、韓国、カナダ、スイスである。日本の次がロシア、スコットランド、アメリカとなっている。

1-1-2: 優位性と課題

国内に公的施設の通年型カーリング専用リンクが五か所(軽井沢町、北見市、青森市、札幌市、稚内市)にある。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い、基本動作の技術を確実に習得することが、国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

さらに、日本女子の強みとして、国内の有力チームが現在4つ(中部電力、ロコソラーレ、北海道銀行、富士急)存在することがあげられる。国際競技力向上を図るための海外強化合宿を実施することができる財源のあるチームである。少なくとも2022年北京大会までは、この4チームは切磋琢磨し、相互に競技力を高め合う関係が継続していくと考えられる。

ジュニアおよび大学のカテゴリーの強化選手にとって、海外強化合宿を実施するのに限られた期間しかないことや、強化チームや選手をサポートする体制が十分に整備されていないことが問題である。これらの強化チームを指導する人材確保し、選手を育成・強化するシステムを構築し、より多くのチームや選手を海外強化合宿に派遣し、WCT大会に参戦させるのが課題となっている。

1-2: 目標（現状可能な目標）とマイルストーン

1-2-1: 2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）

	目標（現状可能な目標）
2020年 2022年	優勝・金メダル獲得

年度	マイルストーン（検証指標）
2021	2022年 世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2021-22 WCF 世界チームランキング 6位以内 1チーム, 15位以内 2チーム 2021年 パシフィックアジアカーリング選手権大会 2位以内
2020	2021年 世界カーリング選手権大会メダル獲得 2020-21 WCF 世界チームランキング 7位以内 1チーム, 18位以内 2チーム 2020年 パシフィックアジアカーリング選手権大会 2位以内
2019	2020年世界カーリング選手権大会 4位以内 2019-20 WCT ランキング 8位以内 1チーム, 20位以内 2チーム 2019年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2位以内

上記の目標・マイルストーンを設定した理由や根拠

日本の女子カーリングは、2018年平昌大会で3位入賞（銅メダル獲得）することができた。2022年北京大会では、それ以上の成績を目指し、優勝・金メダル獲得を目標とする。

近年のオリンピックにおけるメダル獲得国は、直近2年の世界選手権大会でメダルを獲得している傾向にある。そこで、2020年世界選手権大会4位以内、2021年メダル獲得と、2022年北京大会に向けてステップアップする目標を設定した。

さらに、WCT ランキングや WCF 世界チームランキングに関する目標を設定した。オリンピック、世界選手権大会のメダル獲得国は、WCT ランキングや WCF 世界チームランキングの上位チームの国であり、ランキング10位以内のチームはメダルを獲得する可能性が非常に高いため。

1-2-2 : 2024 年パリ大会 (夏季) / 2026 年大会 (冬季)

	目標(現状可能な目標)
2024 年 2026 年	優勝・金メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2025	2026 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2025-26 WCF 世界チームランキング 12 位以内 3 チーム 2025 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2024	2025 年世界女子カーリング選手権大会メダル獲得 2024-25 WCF 世界チームランキング 15 位以内 3 チーム 2024 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2023	2024 年世界女子カーリング選手権大会 4 位以内 2023-24 WCF 世界チームランキング 18 位以内 3 チーム 2023 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2022	2023 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2023 年ユニバーシアード冬季競技大会メダル獲得 2022 年パシフィックアジアカーリング選手権大会 2 位以内
2021	2022 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2021 年世界ジュニアカーリング選手権大会メダル獲得
2020	2021 年世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出 2021 年ユニバーシアード冬季競技大会プレーオフ進出
2019	世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出 世界ジュニア B カーリング選手権大会 3 位以内

上記の目標・マイルトーンを設定した理由や根拠

2026 年大会においても、優勝・金メダル獲得を目標とする。

2022 年北京大会のある 2021 年度までは、次世代ジュニア強化チームを想定してマイルストーンを設定した。この期間に世界ジュニアカーリング選手権大会プレーオフ進出、ユニバーシアード冬季競技大会メダル獲得と順に国際経験を積ませるため。

2022 年度以降は、ワールドカーリングツアー大会参戦を中心に国際経験を積ませて 2026 年ミラノ・コルチナ大会に向けて強化を図る。世界選手権大会、パシフィックアジア選手権大会、WCF 世界チームランキングについては、オリンピック直近 2 年の世界選手権大会でメダルを獲得するように段階的な目標を設定した。

2. 戦略方針

2-1：競技力強化のための戦略

2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① 海外強化合宿での国際競技力向上
- ② 主要国際大会でのストーン、アイスに関する情報収集・分析，強豪国チームに対する戦術情報収集・分析
- ③ 主要国際大会でのコンディション維持

戦略

国際競技力向上のための強化方針は、国内有力チームを海外強化合宿に派遣して、海外強豪チームとの試合を経験させることである。スウェーデン、韓国、カナダ、スイス、カナダ、ロシア、スコットランドなどの強豪国のチームは、1シーズン中にワールドカーリングツアー(WCT)などの国際大会に10～15回出場している。世界チームランキングで20位以内ランクされるようになると、世界選手権大会やオリンピックでのメダルの可能性が出てくる。日本の強化チームもそれと同等数の国際大会、少なくともWCT10大会に出場し、国際経験を積む必要がある。世界カーリング連盟(WCF)世界チームランキングで上位にランクされるメリットは強化の好循環に入れることだ。つまり、ランキング上位のチームはグランドスラム大会に招待され出場できるようになり、強豪チームとの対戦も増加するうえ、大会の結果に対するポイントも高くなるのである。複数の国内チームがこのレベルで競合する状況を作ることが望まれる。

カーリングの競技力の要素には、アイスの読みとストーンのマネジメントがある。選手個人のスキル、チームのパフォーマンスはこれらの要素と深く関係している。WCF主催の主要国際大会については、アイスやストーンの情報を日本カーリング協会の強化委員会が管理し、強化チーム間で共有する。また、大会でのデータ収集は強化スタッフがサポートし、チームに提供する。

主要国際大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が必要である。特に世界選手権大会は予選の7日間一日2試合、さらにプレーオフに進むと9日間にもおよぶ。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、当然ながら選手には体力向上のために継続的なフィジカルトレーニングが求められる。さらに、より良いコンディションを大会で維持するには、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が必要となる。本会医科学委員会と連携し、トレーナーや管理栄養士を国内・外の強化合宿や主要な国際大会に派遣してもらい、選手のコンディションの維持・向上をサポートする体制を充実させていく。

2022年北京大会までの日本カーリング選手権大会および日本代表選考の方法をすでに決定している。日本カーリング選手権大会は、世界カーリング選手権大会とパシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表を決定する大会である。オリンピックや世界選手権大会などの主要国際大会に安定したパフォーマンスを発揮できるチームを日本代表として選出する大会であることが求められる。強化チームA・Bや世界チームランキング50位以内の最上位チームが出場できる条件を整えることで、海外強化合宿で国際経験を積んだチームから日本代表が確実に選出されるようにしている。さらに、日本選手権大会では海外の優秀なアイス技術者を大会時に招聘して、主要な国際大会と同等の条件のストーンやアイスを提供する体制を整備する。

2020年度(2020-21シーズン)については、新型コロナウイルス感染症の影響で、海外強化合宿の中止や規模縮小での実施は避けられない状況だ。国内で今夏開催される予定のWCT大会が二つ中止となり、強化事業計画の執行にすでに支障が生じている。強化事業計画を見直し、海外強化合宿の代替として、強化チームによる国内合同強化合宿の実施が必要と考えている。大会を想定した形式での合宿を異なるカーリング施

設で複数回実施することを計画する。海外強化合宿実施の可否は、外務省の感染症危険レベルを参考に状況に応じて判断する。

2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① ジュニアカテゴリーからトップチームまでの海外強化合宿派遣の継続
- ② ジュニア担当コーチのブロック巡回指導
- ③ ジュニア国内合同強化合宿

戦略

ジュニア強化選手、大学強化選手を海外強化合宿に派遣し、ワールドジュニアカーリングツアー(WJCT)大会に参戦させる。国内とは異なる環境の大会で、様々なタイプのチームと対戦する機会を増やす。世界の同世代のチームとの試合経験をより多く積ませる。2022年度以降は、トップカテゴリーのワールドカーリングツアー(WCT)大会に主戦場を移し、2026年ミラノ・コルチナ大会に向けて強化を図る。

ジュニア担当コーチは、ジュニア強化選手、大学強化選手の所属するブロックを定期的に巡回し、将来を見据えて指導する。ジュニアおよび大学のカテゴリーにおいては、日本代表として単独チームではなく、選抜チームを国際大会に派遣することも想定して、強化体制を構築していく。

ジュニア強化選手、大学強化選手を対象としたジュニア国内合同強化合宿は従来通り継続して実施する。強化合宿では、実戦形式の練習のほか、チームビルディング、アンチ・ドーピング、コンプライアンス・ガバナンス、食事・栄養、メンタルトレーニング、フィジカルトレーニング、コンディショニング、メディアトレーニング等の研修を行い、「カーリング精神」を理解し、体現できるアスリートを育成することを目指す。

2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

別添 1 に記載

2-3：強化拠点

1) 強化拠点の必要性と活動方針

通年型カーリング専用リンクはシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できる強化拠点として必要である。国際大会で安定したパフォーマンス発揮するために、基礎練習を反復して基本動作の技術を習得する。

2) 主な活動場所

具体的な活動場所		主に使用するカテゴリー
拠点・施設名	所在地(都道府県・市町村)	
軽井沢アイスパーク	長野県北佐久郡軽井沢町	全て
アドヴィックス常呂カーリングホール	北海道北見市常呂町	全て
みちぎんドリームスタジアム	青森県青森市合浦	全て
どうぎんカーリングスタジアム	北海道札幌市豊平区	全て

2-4：強化体制等の整備

2-4-1: 日本代表選手及び指導者(コーチ)、強化スタッフの選考

1) 日本代表選手

世界カーリング選手権大会、パシフィックアジアカーリング選手権大会の日本代表選手は日本カーリング選手権大会優勝チームから原則選考される。また、オリンピック、ユニバーシアードなどの日本代表選手は日本代表決定戦優勝チームから原則選考される。各大会の結果および過去の実績を考慮して強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

2) 日本代表監督・指導者(コーチ)、強化スタッフ等

日本代表チームの指導者は、日本選手権大会、日本代表戦決定戦等の結果および過去の実績等を考慮して強化委員会が推薦した者を理事会で承認して、日本代表の指導者として決定する。

2-4-2: アンチ・ドーピングに関する取り組み

カーリング競技規則に「カーリング精神」が謳われ、そこに「素晴らしいスポーツマンシップ、思いやりの気持ち、尊敬すべき行為」がすべてのカーリング関係者に求められている。アンチ・ドーピングについては、毎年夏季国内合同強化合宿、夏季国内ジュニア合同強化合宿において研修を実施している。同合宿において、「コンプライアンス・ガバナンスセミナー」を実施し、本協会倫理規程に基づき設置されたコンプライアンス委員会が違法行為や規程に反する行為等の防止に取り組んでいる。強化選手に対して参加を義務づけ、スポーツ・インテグリティ教育を徹底している。また、「日本代表及び強化選手行動規定」が定められており、強化選手や関係スタッフはその自覚や責任を忘れず、行動規定を遵守し規律ある行動に努め、最善を尽くして競技に臨むことを誓約することになっている。

2-4-3: 人材育成・確保

強化チームのコーチとして、現在 JOC 専任コーチでカナダ人のジェームス・リンド氏を配置している。2022 年北京大会まで、女子強化チームのコーチを担う予定。

ジュニア担当コーチとして小笠原歩氏を配置している。2026 年ミラノ・コルチナ大会に向けた強化体制は未定。今後、日本人の専任コーチや外国人のコーチをサポートする強化スタッフとしてオリンピックの活用も検討している。

2-4-4: 強化戦略プラン推進体制

別紙

3. モニタリング及び検証・評価

モニタリング及び 検証・評価の項目	実施時期	実施者	備考
目標とマイルストーン	年 2 回(12 月, 5 月)	強化委員長, 副委員長, ジュニア担当コーチ	
各事業の進捗状況	年 2 回(9 月, 1 月)	強化委員長, 副委員長	

強化戦略プラン	年 2 回(12 月, 5 月	強化委員長, 副委員長, ジ ュニア担当コーチ	

4. 別添資料

- 別添 1) 有望選手及び指導者・スタッフ一覧
- 別添 2) 2020 年度事業計画

強化戦略プラン

第二部

ミックスダブルスカーリング

バージョン 2.0

2020/06/30

強化責任者： 柳 等

連絡先：

E-mail：

強化戦略プラン 第二部（種目又は種別、強化単位）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
1.0	令和2年6月30日	柳 等	

○バージョン管理

軽微な改定： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1
大規模な改定： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

目次

1. 現状と目標	4
1-1：現状	4
1-1-1：背景と現状の競技力	4
1-1-2：優位性と課題	4
1-2： 目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	5
1-2-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）	5
1-2-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）	6
2. 戦略方針	7
2-1：競技力強化のための戦略.....	7
2-1-1：2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）の目標達成に向けた戦略.....	7
2-1-2：2024年パリ大会（夏季）／2026年大会（冬季）の目標達成に向けた戦略	7
2-2：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ	8
2-3：強化拠点	8
2-4：強化体制等の整備	8
2-4-1：日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考	8
2-4-2：アンチ・ドーピングに関する取り組み.....	9
2-4-3：人材育成・確保.....	9
2-4-4：強化戦略プラン推進体制	9
3. モニタリング及び検証・評価	9
4. 別添資料	10

1. 現状と目標

1-1: 現状

1-1-1: 背景と現状の競技力

ミックスダブルスカーリングは 2018 年平昌大会から採用された種目であるが、残念ながら、日本は出場できなかった。オリンピック出場権の懸かった世界ミックスダブルスカーリング選手権大会では、2016 年 20 位、2017 年 19 位の成績であった。2017 年大会には四人制チームのトップ選手で構成したチームで臨んだ。小笠原歩選手、阿部晋也選手が出場したが、出場権獲得には至らなかった。世界選手権大会で戦うにあたり、十分な準備ができていなかったと考えられた。2018 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会には、2018 年平昌冬季オリンピックに出場した藤澤選手、山口選手のチームで臨み、過去最高成績の 5 位入賞を果たした。2019 年同大会でも同チームが出場し、再び 5 位入賞となり、2020 年大会の出場権を獲得した。トップ選手個人のパフォーマンスや状況に対応する能力が高いことが示された。世界的にも四人制チームのトップ選手で構成するチームで世界選手権大会に臨む傾向にあり、上位成績を収めている。2020 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会には松村選手と谷田選手のチームが出場する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で大会は中止となった。2021 年同大会への出場権は確保されている。日本の世界カーリング連盟(WCF)の世界ランキングは 11 位(令和 2 年 6 月 30 日現在)。上位国は、カナダ、スイス、アメリカ、ノルウェー、中国、ロシア、韓国、スウェーデン、フィンランド、チェコである。

1-1-2: 優位性と課題

日本カーリングの強みは、国内に公的施設の通年型カーリング専用リンクが五か所(軽井沢町、北見市、青森市、札幌市、稚内市)にあることである。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い、基本動作の技術を確実に習得することが、国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

2022 年北京大会に向けては、四人制トップチームの強化選手で構成するミックスダブルス強化チーム(MD ハイパフォーマンスチーム)が日本ミックスダブルスカーリング選手権大会に出場できる条件を整備した。MD ハイパフォーマンスチームがワールドカーリングツアー大会に参戦するのは日程的に困難であるので、オフシーズンのうちに外国人コーチによる国内合同強化合宿を実施してミックスダブルスに特化した強化を進めること、ミックスダブルスの強化体制(専任コーチ、トレーナー等)を確立することが課題である。また、2026 年大会に向けての課題は、より多くの MD ハイパフォーマンスチームが日本ミックスダブルスカーリング選手権大会に出場できるように条件を整備することである。

1-2: 目標（現状可能な目標）とマイルストーン

1-2-1: 2020年東京大会（夏季）／2022年北京大会（冬季）

	目標（現状可能な目標）
2020年 2022年	メダル獲得

年度	マイルストーン（検証指標）
2021	2022年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2020	2021年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会メダル獲得
2019	2020年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会4位以内〈中止〉

上記の目標・マイルストーンを設定した理由や根拠

2022年北京大会の目標は、メダル獲得とする。

2018年、2019年世界選手権大会の成績はいずれも5位入賞で、2025年北京大会ではメダル獲得の可能性が非常に高いところに位置している。そこで、2020年世界選手権大会4位以内、2021年メダル獲得と、2022年北京大会に向けてステップアップする目標を設定した。

1-2-2 : 2024 年パリ大会 (夏季) / 2026 年大会 (冬季)

	目標(現状可能な目標)
2024 年 2026 年	メダル獲得

年度	マイルストーン(検証指標)
2025	2026 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2024	2025 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会メダル獲得
2023	2024 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会メダル獲得
2022	2022 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2021	2022 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出
2020	2021 世界ミックスダブルスカーリング選手権メダル獲得<7 位以内>
2019	2020 世界ミックスダブルスカーリング選手権 4 位以内

上記の目標・マイルトーンを設定した理由や根拠

2026 年大会の目標は、メダル獲得とする。
オリンピック直近 2 年の世界選手権大会はオリンピック出場に係る大会となる。そのためには、少なくとも 7 位以内に入賞する必要がある。

2. 戦略方針

2-1: 競技力強化のための戦略

2-1-1: 2020年東京大会(夏季) / 2022年北京大会(冬季)の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① MD ハイパフォーマンスチーム
- ② 主要国際大会でのコンディション維持
- ③ 国内合同強化合宿の実施と外国人コーチによる指導

戦略

四人制チームの強化選手で構成される MD ハイパフォーマンスチームが最重要成功要因である。世界的にもこのようなチームで世界選手権大会やオリンピックに臨む傾向にある。2019年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会でメダルを獲得したチームの選手は、四人制チームの世界チャンピオンやオリンピックチャンピオンである。これまでは四人制の日本選手権大会後にその大会の上位チームの選手から選出してチームを構成したが、シーズン前に四人制チームの強化選手同士で組むことで、より長い期間強化できるようにしていく。

世界ミックスダブルスカーリング選手権大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が大切。ミックスダブルスカーリングには控えの選手がいないので、二名の選手で一週間以上の日程をこなさなければならぬ。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、当然ながら選手には体力向上のために継続的なフィジカルトレーニングが求められる。さらに、より良いコンディションを大会で維持するには、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が必要となってくる。本会医科学委員会と連携し、トレーナーや管理栄養士を国内・外の強化合宿や主要な国際大会に派遣してもらい、選手のコンディションの維持・向上をサポートする体制を充実させていく。

MD ハイパフォーマンスチームがワールドカーリングツアー大会に参戦するのは日程的に困難である。オフシーズンのうちにミックスダブルスに特化した国内合同強化合宿を実施する。外国人コーチの指導を仰ぎ、ミックスダブルスの試合に慣れ、種目特有の戦術をマスターすることを目指す。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がスポーツ活動に支障をきたしている。ミックスダブルスカーリングの強化活動にはその影響をほとんど受けることはない。2022年北京大会の出場権獲得のレギュレーションに変更はあったが、強化方針に大きな変更はない。まずは2021年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会でチームが最高のコンディションで大会に臨み、2022年北京大会の出場権を獲得できるよう、サポート体制を構築し、万全な準備を行う。

2-1-2: 2024年パリ大会(夏季) / 2026年大会(冬季)の目標達成に向けた戦略

主な成功要因

- ① MD ハイパフォーマンスチーム
- ② 主要国際大会でのコンディション維持
- ③ 国内合同強化合宿の実施と外国人コーチによる指導

戦略

四人制チームの強化選手で構成される MD ハイパフォーマンスチームが最重要成功要因である。2022年北京大会以降は、日本ミックスダブルスカーリング選手権大会により多くの MD ハイパフォーマンスチームが出場できるように条件を整備していく。MD ハイパフォーマンスチームを長期的に強化する。

世界ミックスダブルスカーリング選手権大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が大切。

ミックスダブルスカーリングには控えの選手がいないので、二名の選手で一週間以上の日程をこなさなければならない。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、当然ながら選手には体力向上のために継続的なフィジカルトレーニングが求められる。さらに、より良いコンディションを大会で維持するには、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が必要となってくる。本会医科学委員会と連携し、トレーナーや管理栄養士を国内・外の強化合宿や主要な国際大会に派遣してもらい、選手のコンディションの維持・向上をサポートする体制を充実させていく。

MD ハイパフォーマンスチームがワールドカーリングツアー大会に参戦するのは日程的に困難である。オフシーズンのうちにミックスダブルスに特化した国内合同強化合宿を実施する。外国人コーチの指導を仰ぎ、ミックスダブルスの試合に慣れ、種目特有の戦術をマスターすることを目指す。

2-2： ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

別添 1 に記載

2-3： 強化拠点

1) 強化拠点の必要性と活動方針

通年型カーリング専用リンクはシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できる強化拠点として必要である。国際大会で安定したパフォーマンス発揮するために、基礎練習を反復して基本動作の技術を習得する。

2) 主な活動場所

具体的な活動場所		主に使用するカテゴリー
拠点・施設名	所在地(都道府県・市町村)	
軽井沢アイスパーク	長野県北佐久郡軽井沢町	全て
アドヴィックス常呂カーリングホール	北海道北見市常呂町	全て
どうぎんカーリングスタジアム	青森県青森市合浦	全て
みちぎんどリームスタジアム	北海道札幌市豊平区	全て

2-4： 強化体制等の整備

2-4-1: 日本代表選手及び指導者（コーチ）、強化スタッフの選考

1) 日本代表選手

世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の日本代表選手は日本ミックスダブルスカーリング選手権大会優勝チームから原則選考される。また、オリンピック日本代表選手は日本代表決定戦優勝チームから原則選考される。各大会の結果から強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

2) 日本代表監督・指導者（コーチ）、強化スタッフ等

日本代表チームの指導者は、日本ミックスダブルスカーリング選手権大会、日本代表決定戦の結果および過去の実績等を考慮して強化委員会が推薦した者を理事会で承認して、日本代表の指導者として決定する。

2-4-2: アンチ・ドーピングに関する取り組み

カーリング競技規則に「カーリング精神」が謳われ、そこで「素晴らしいスポーツマンシップ、思いやりの気持ち、尊敬に値する行為」がすべてのカーリング関係者に求められている。アンチ・ドーピングについては、毎年夏季国内合同強化合宿において研修を実施している。同合宿において、「コンプライアンス・ガバナンスセミナー」を実施し、本協会倫理規程に基づき設置されたコンプライアンス委員会が違法行為や規程に反する行為等の防止にも取り組んでいる。強化選手に対して参加を義務づけ、スポーツ・インテグリティ教育を徹底している。また、「日本代表及び強化選手行動規定」が定められており、強化選手や関係スタッフはその自覚や責任を忘れず、行動規定を遵守し規律ある行動に努め、最善を尽くして競技に臨むことを誓約することになっている。

2-4-3: 人材育成・確保

ミックスダブルスの強化スタッフは配置されていない。オリンピックメダリストを軸に外国人コーチを配置することを検討している。2026年北京大会に向けては、日本人の専任コーチや外国人のコーチをサポートする強化スタッフとしてオリンピックを活用することを検討している。

2-4-4: 強化戦略プラン推進体制

別紙

3. モニタリング及び検証・評価

モニタリング及び 検証・評価の項目	実施時期	実施者	備考
目標とマイルストーン	年2回(12月, 5月)	強化委員長, 副委員長, ジュニア担当コーチ	
各事業の進捗状況	年2回(9月, 1月)	強化委員長, 副委員長	
強化戦略プラン	年2回(12月, 5月)	強化委員長, 副委員長, ジュニア担当コーチ	

4. 別添資料

別添 1) 有望選手及び指導者・スタッフ一覧

別添 2) 2020 年度事業計画